

「地域には欠かせない 地方国立大学」

四国経済連合会参与（香川大学長）

一井 眞比古



国立大学は、日本社会全体だけではなく、地域を支える人材養成の中核及び知の拠点として地域の発展に大きく貢献しています。また、大学における教育と研究の質をより一層高めるために国立大学は常に努力しており、さらに教職員の意識改革や組織改革をはじめ、外部資金獲得、人件費・光熱水料・物品費の削減による経営改善にも努めています。

閣議決定された「経済財政改革の基本方針2007」（骨太方針2007）では、大学改革が大きく取りあげられています。しかし、今回の骨太方針に集約されるまでの議論のなかには、過度な競争原理や成果主義に基づいて国立大学の運営費交付金の配分を見直すべきであるとの議論もありました。国立大学を経済的側面からのみ見ている意見も多く、とりわけ地方の国立大学に対する理解不足に基づく意見も多くありました。

国立大学の経費はすべて税金でまかなわれているわけではありません。国立大学全体の収入の半分以上は学生納付金や附属病院収入、外部からの研究資金などです。全収入に占める運営費交付金の割合は大学の規模や附属病院の有無などによって異なりますが、たとえば香川大学では40%程度で、残りは大学独自の努力によるものです。運営費交付金は国立大学を運営するための基盤的経費であり、本来は競争原理に基づ

いて議論するものではありません。それよりも日本の高等教育に対する公的負担は欧米諸国に比べて低く、それを欧米諸国並みにふやし、我が国の国家戦略である「科学技術創造立国」としての基盤を充実するのが急務であります。

地方の国立大学は優秀な研究者を多数養成すると同時に地域企業との共同研究も活発に行っています。理系分野の大学院博士課程学生数の3/4以上は国立大学に在籍しており、そのうちの半分近くの学生は三大都市圏以外の大学に所属しています。また、中小企業と大学との共同研究の60%以上は地方の国立大学とのものです。

医学部をもつ国立大学には附属病院があり、高度な医療と人材を社会へ提供しています。特に、地方の国立大学は地域医療の中核であり、地域には欠かせない存在となっています。また、大学には多数の若者が勉学に励んでおり、地方の国立大学は地域社会の活力やにぎわい創出にも大きな役割を果たしています。

地方の国立大学は、人材養成に加え、地域における「知の拠点」としての大きな役割を果たしていますが、今後も地域の期待に十分応えられるように努めるとともに、地域の発展に今まで以上に貢献したいと考えています。